

御船地区

(熊本県御船町)

- 計画期間 平成22年度～平成26年度
- 面積 204ha
- 交付対象事業費 1,350百万円
- 町人口 18,156人 (地区内人口 7,937人)

ポイント 御船町の新たな顔となる「人集い夢かなう文化交流空間」の形成に向けて、地域資源を生かした交流拠点の形成による魅力の再生【小目標1】や、新たな交流拠点における住民と来街者の活動や交流による地区の賑わい再生【小目標2】、子育て支援や安全な交通ネットワークの形成、身近な公園整備による住環境の向上【小目標3】に向けたシナリオを描いている。

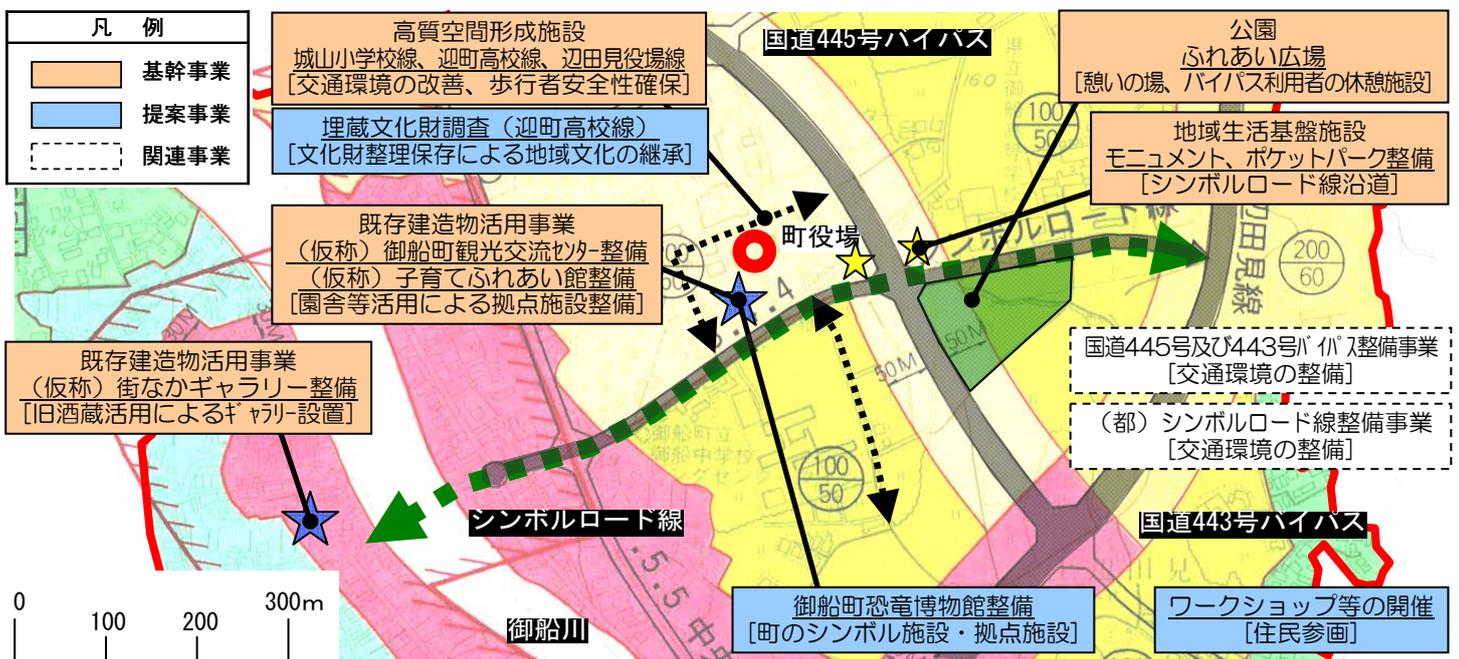
地区概要 全国に2箇所しかない恐竜博物館の一つ「御船町恐竜博物館」の移転整備や、旧幼稚園舎の思い出を受け継いだ「子育てふれあい館」、恐竜博物館に訪れた方々をもてなす「観光交流センター」、町民や国道バイパス利用者の新たな交流拠点となる「ふれあい広場」、かつての御船町の栄華を今もなお伝える“御船倉屋敷”を活用した「街なかギャラリー」等、現在整備中(平成23年度完了予定)のシンボルロード沿道において、本町中心部としての生活利便性向上と、町全体の活性化のけん引役としての集客性の向上に向けた計画策定を、町民主体で実施した。

目標 本町の新たな顔となる「人集い夢かなう文化交流空間」の形成を図るため、各種事業を展開し、いきいきとした町民生活を取り戻し、町の子ども、ひいては、九州中の子どもに夢や希望を与える御船町を目指す。

指標 まちづくりに対する町民の賛同・協力が不可欠であるため、「各種まちづくり活動(WS、会合等)のべ参加者数」等を数値指標とした。

まちづくり活動参加者数	216人 (H21)	→	400人 (H26)
恐竜博物館来館者数	31,454人 (H20)	→	40,000人 (H26)
子育て支援施設利用者数	3,401人 (H20)	→	4,100人 (H26)

事業内容 基幹事業(995百万円) → 公園(1箇所、約1.2ha)、観光交流センター、ギャラリー、子育て支援施設(いずれも既存建造物活用)、ポケットパーク(2箇所)、モニュメント(14基)、高質空間形成施設(歩道確保、幅員、3路線)
 提案事業(355百万円) → 恐竜博物館(延床面積約2,000㎡)、ワークショップ、埋蔵文化財調査



地区の現況と課題

本町中心地においては、国道バイパス整備による「通過都市化」が懸念され、かつての中心地である商店街エリアの再生も、本町固有の問題点であった。そこで、町外の方々を呼び込み、地域資源（恐竜博物館、御船倉屋敷、音楽、ロボット、農産物等）による“もてなし”により、賑わいを取り戻すことが課題であった。さらには、本町が今後飛躍するには、自主性、自立性、独自性をもった魅力ある地域づくりを進める必要があり、その実現に向けて、職員、町民の意識を変えていくことが課題であった。

提案事業の特徴

恐竜博物館に併設する観光交流センターの役割

観光交流センターの役割は、「御船町の宣伝マン」と「観光コーディネーター」である。これら役割を担い、「来訪者」と「もてなす人＝町民」双方が満足感を得られるような取り組みを、誘導、支援する計画である。

町民との連携による全体計画及び各種計画の立案

御船町では、「すべてを明かしすべてを聴く、町民のあなたが主役のふるさとづくり」をマニフェストの柱として町政を進めており、本計画策定にあたって、まちづくり住民説明会や住民ワークショップ、関係団体へのヒアリング等を行い、町民の積極的な参画を求めている。

計画策定プロセス

住民や民間事業者等との連携した計画策定

御船川左岸の商店街において、かつての栄華を偲ばせる御船倉屋敷（旧大丸酒造建物）を活用しようと、地元住民、商工会、大学教授等を交えて議論が進められ、本計画において「街なかギャラリー」として位置づけられ、現在も住民主体で具体的な運営について活発な議論を進めている。

旧幼稚園舎を活用した子育て支援施設の整備

旧御船幼稚園（平成2年度創立）は、廃園後、旧園舎を子育て支援の場として有効活用しようと、地域住民が立ち上がり、町議会においても陳情書が可決された。こうした経緯を経て、既存施設の再整備を計画している。

山本孝二町長のコメント

御船町は、かつて酒造業で繁栄した御船川左岸側から、近年では、町のシンボルロード線や国道バイパス等の整備に伴い、右岸側にまちの賑わいが移行してきました。一方、交通利便性の向上に併せて、単なる通過都市になってしまうのではないかと懸念から、町の観光資源である恐竜博物館の再整備を目玉とした本事業を計画しました。そこにこのような評価をいただき、2期目の町政スタートにあたり自信と勇気をいただきました。『人と人のつながり』から『共創』のまちづくりを基本理念としたマニフェストを掲げ、町民の皆さんと『自分たちのまちは自分たちでつくる』という地域づくりを目指しますので、是非一度、御船町にお越し下さい。

御船町商工会長 福味総一郎さんのコメント

本町でもこれまで様々な活性化事業が取り組まれ、それら取り組みにより、町はなんとか活力を保ってきましたが、今回の計画ほど、具体的に将来への希望を抱かせるすばらしいものはありません。日本に2箇所しかない恐竜博物館の再整備は、町にとって千載一遇のチャンスだと思います。年間10万人や20万人の来町者を期待することも、夢ではなくなってきました。シンボルロード線も、文字通り「町のシンボル」として、町民に豊かなものをたくさん運んでくるでしょう。今後は、更に楽しみや豊かさ溢れる町を目標に、私たちの手でこの愛する町を育てていこうと思います。

地元中辺田見区長 馬場洋一郎さんのコメント

新しいまちづくりに参加できました事を大変嬉しく思っています。町民のあなたが主役の「ふるさとづくり」ということで、計画策定の時点から参加でき、責任を感じ、また、やりがいを感じています。問題はこれからだと思えます。私達町民一人ひとりが責任を持ち、管理運営に携わり、活用の仕方での施設の価値が決まり、町全体の活性化につながると思えます。私達の町は私達町民の手で作ることを心に誓い、「安全、安心で住み良い」日本一の町を作ることを目標に、取り組んでいきたいと思えます。



▲ 御船地区（航空写真）

※写真左が「御船川」。写真上部が下流域
左岸側：「旧商店街」
右岸側：主要な施設が立地する「中心地」



▲ 現在の御船町恐竜博物館



▲ 子育て支援施設として活用する幼稚園舎



▲ ワークショップの様子



▲ ワークショップによる成果
（ふれあい広場イメージパース）